

「二台のカメラ」で記録する! バイク用ドライブレコーダーの 実用性と意外な楽しみ方

タクシーやバスなどをはじめ四輪では装着車が増えてきたドライブレコーダー。じつはすでにバイクで使用できるものも発売されていたのだ!今回は便利な機能を多数持つ「ニリドラ」をご紹介します!

安心マネジメント
 TEL03-5710-4556
<http://www.as-management.jp>
 レポート……………編集部



●安心マネジメント
「ニリドラ」DRA-014
 画像形式: MPEG4
 保存媒体: CF Card (8GBカードが一枚付属)
 記録容量: 8GB~32GB
 入力画像: 2チャンネル CMOS カメラモジュール
 解像度: 720H 480V
 フレームレート: 20fps以上 (各チャンネル)
 記録方式: 常時録画
 音声入力: オンオフ切り替えスイッチ付き
 バックアップ電源記録時間: 3秒
 GPS機能: 有
 時間表示: 有
 (電気特性)
 入力電圧: 12V~36V
 消費電力: 600mA @12V
 (外形寸法)
 寸法: 120mm×85mm×26mm
 重量: 230g
 構成: Housing: Polycarbonate
 Panel Window: Acrylic

通常販売価格
 55,440円が
「アウトライダーを見た」
 で20台限定、
 特別価格
29,800円!!

カメラ1

カメラ2

GPS受信機

LED信号表示機

マイク

**「もしものとき」はもちろん
 ツーリング映像の撮影も
 こなす優れもの!**

危ない!

ドライブレコーダーの基本
 事故発生その瞬間をしっかりと記録

交通事故の発生後の映像証拠として提示する場合、2台のカメラは非常に役立つ。右直事故などは前方のカメラ、追突事故は後ろのカメラがカバーする。またGPSに基づき常時速度情報も記録されるので、非常に正確な検証が可能となるはずだ。

最近、ニュースなどでもよく登場するドライブレコーダーの映像だが、バイクで使うために作られたものがあつたことをご存知だろうか。このニリドラは四輪でも二輪でも使える優れものだ。メインスイッチをオンにすれば撮影スタート。難しいカメラ操作は不要で扱いやすい。

「もしものとき」のドライブレコーダーだが、普段はツーリング映像を撮っても楽しめる。最大の特徴である二台のカメラを駆使することで臨場感あふれる映像が簡単に撮れるのだ。カメラは視野角135度の広角レンズを採用していて、走行によるブレも少ない。前方・後方の基本的な配置はもちろん、メーターやシフトペダルを映すのもおもしろいだろう。またGPS受信機が付いているので、旅の行程もばっちり記録できる。安全・安心のアイテムとしてだけでなく、積極的に楽しむ使い方をすすめたい。

走行撮影を楽しみながら
 万が一のときにも心強い

〈ニリドラ装着の一例〉 BMW R100GS バリダカール (編集部・櫻井所有)

LED信号表示機



目の届くメーター周りに設置する。各機能の作動状況をランプの組み合わせで知らせてくれる信号だ

電源スイッチ



本体をバッテリーに接続したらあとはこのスイッチのオンオフでカメラを動作させる。ハンドルバーに固定する

GPS受信機



磁石内蔵で吸盤も付属しているので、タンクに装着するのが望ましいが、都合に合わせてどこでもOK

カメラ(後方)



後ろの状況を正確に捉えるため、テールランプの上などなるべくセンターに装着するのがおすすめ

マイク



エンジン音や走行音を拾いたければバイクに装着。声を入れたければウェアにも付けられる

ドライブレコーダー本体



シートを空けて工具入れなどに入れられればベスト。入らなければポーチを用意するなど工夫が必要となる

カメラ(前方)



肝心な正面の映像を押しさえるためやはりセンターに。車種によって取り付け位置は変わってくるだろう

電源はバッテリーから



電源は車載のバッテリーから取る。降車後はハンドルに装着した電源スイッチを切ることを忘れずに

ニリドラのここがGOOD!

●絶え間なく撮影し続ける

付属のCFカードの容量は8GB。これで約7時間連続撮影が可能。もしデータがフルになれば、古い情報から自動的に上書きされる。

●安心のバックアップ機能

強い衝撃を受けて電源が落ちても本体が3秒間のバックアップ機能を備えているので、事故時の映像もしっかり記録。

●夜間も雨天も撮影できる

ドライブレコーダーという性格上、いかなる状況下でも撮影できなければならない。そのため夜であろうと、雨が降っていても撮影できる設計だ。

記録媒体は一眼デジタルカメラなどで用いられるCFカード。8GBのカードが付属し、これで約7時間の連続記録が可能



カメラ、GPS受信機、LED信号表示機には防水加工が施されている。マイクやレコーダー本体端子は濡らさないように注意が必要

細かいパーツでスタイルを崩さない!



装着後のスタイリングが気になるだろうが、配線をうまく隠せばほとんど目立たないのだ!

取り付けには少しご注意



配線に工夫が必要な車種も

今回、編集部がテストした車両はシート下など内部のスペースに比較的余裕があったが、車種によっては内部にレコーダー本体を取り込むことが難しい場合もある。前方への配線はタンク下のフレームに這わせるとコードの露出が少なくスマートに接続できる。

編集部でテストした映像がYouTubeで見られます!



アウトライダーチャンネルもうご存知ですか?

今年から少しずつアップしているYouTubeの「アウトライダーチャンネル」で、ニリドラを使って撮影した映像が見られます。購入をご検討の方、ぜひ参考にご覧ください!

URL:<http://www.youtube.com/user/OutRider1986>

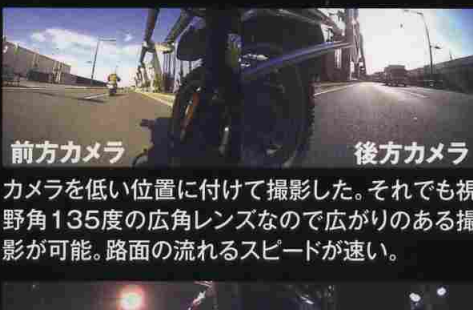
ニリドラで撮影した走行映像 前後カメラで臨場感あふれる映像が撮れる!



前方カメラ

後方カメラ

2台のカメラで撮影された映像が同一ファイルで保存される。そのため再生時もこのように二画面で同時再生となる。たとえば、クルマを追い抜くと、左の前方カメラではクルマのお尻を捕らえ、そのすぐあとに後方カメラが頭を捕らえる。スピード感や臨場感は2台のカメラならではの。



前方カメラ

後方カメラ

カメラを低い位置に付けて撮影した。それでも視野角135度の広角レンズなので広がりのある撮影が可能。路面の流れるスピードが速い。



前方カメラ

後方カメラ

いつなんどきでも撮影できなければならないドライブレコーダーだから、夜もそのまま設定いらずで撮影できる。トンネルも同様。



GPS機能を駆使する

記録した映像を再生するには、まずパソコンに専用の再生ソフトをインストールする。インターネット接続環境ならば、GPSで取得したデータをもとにグーグルマップ上での走行軌跡も表示される。旅先で見つけた絶景ロードもこれを見れば一目瞭然。走行速度も見られるぞ。